



施工前の北村高架橋

## HiPer工法を活用

### 施工の手間、コスト縮減

兵庫国道管内の国道171号北村高架橋で、劣化した床版の補強工事が進んでいる。

同橋梁は兵庫県伊丹市内の県道13号やJR宝塚線を跨ぐ箇所にある橋長920㍎の高架橋。供用

後38年が経過しているが、補強した箇所はP17とP30の上り線部のみという状況。

平成13年度の現地調査において床版の劣化状況はグレードⅡ（進展期）から同Ⅲ（加速期）にかかる状態と判定されたことから、今回同区間の下り線1590平方㍎を補強することになった。同時に張出床版部の補修も進めている。

今回補強に用いた手法は炭素繊維シートの下面貼り付け工法。昼間交通量は約4万台と多く、上面増厚は難しい。また、

県道13号との交差点（北村交差点）があり、規制を最小限にするため、規模の大きな足場は設けられない。

そのため軽量の炭素繊維シートを採用。中でも弾性樹脂を緩衝材として用いることで積層数を減らすことのできるHiPer CF工法を採用し、施工に要するコストを縮減している。

今後は宝塚跨線部を含むA1とP17の部分、約5800平方㍎について、補強を計画している（時期は未定）。

設計は中央復建コンサルタンツおよび新日本石油、施工はオカモト・コンストラクション・システム。